

次号予告

特集 東日本大震災：OR手法活用への期待

- 震災後の都市・地域復興とORが果たす役割 三浦英俊（南山大学情報理工学部）
東日本大震災のライフライン復旧にみる災害対応オペレーション 能島暢呂（岐阜大学工学部）
救援物資供給と復興計画に期待するORの役割 苦瀬博仁（東京海洋大学海洋工学部）
デジションツリーとPERT—東電工程表に思う 刀根 薫（政策研究大学院大学）
捜索救難における探索理論の役割 宝崎隆祐（防衛大学校情報工学科）
火力発電コストのリスク低減のための対応策 遠藤 操（電力中央研究所）
震災後の電力不足とピークロード料金の可能性 松川 勇（武藏大学経済学部）
首都圏鉄道運転調整のネットワーク全体への影響と分散乗車 田口 東（中央大学理工学部）
緊急地震速報利活用の実際：実利用の実態とその課題 根岸弘明（(独)防災科学技術研究所社会防災システム研究領域）

編集後記

- 3月の震災では非常に広い範囲で多くの被害がありました。鉄の街、釜石でも地震直後の津波で原料の入荷、製品の出荷のための港湾設備が被害を受け操業停止となりました。しかし7月には発電所が、9月には設備の一部、と着実に復旧しているようです。
- 製鉄は、もののけ姫の昔から村や町を作り、またさまざまなモノを作るための材料やモノを作るための製造機械を作るための材料を作り、今は電力まで作っています。まさにインフラであり、そのためさまざまなOR手法の適用が行われてきた分野です。
- そうした流れの中で今号の、中川氏の複数プロセスを通しての最終品質の作り込み、濱氏の複数工程のス

ケジューラを連携させたスケジューリング、小林氏の原料の生産だけでなく物流までを対象とした計画など、OR手法による成果、コンピューティング技術の発達を受けて、それまで制限を受けてきた適用対象がさまざまな面で確実に大きくなっているのを感じます。

●また岩谷氏の、スケジューリング問題の大規模で静的な部分をOR手法を用い、動的な部分をエージェントやインターフェース技術によって補完する、という指摘にはシステム開発に携わる者として非常に興味があります。これは現状は人の方が効率的に処理できる部分は人にまかせることで、よりプラグマティックな解決を図るということであり、ORの目指すところの一つと考えるからであります。（斎藤彰一）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 松井知己（中央大学）

委員 池邊淑子（東京理科大学）、石井儀光（(独)建築研究所）、恐神貴行（日本アイ・ビー・エム株）、神山直之（中央大学）、川田丈浩（日本電信電話株）、木村新之介（東京ガス株）、草刈君子（株）サイテック・ジャパン）、小林憲正（東京工業大学）、斎藤彰一（株）構造計画研究所）、武内陽子（(公財)鉄道総合技術研究所）、田島博之（秀明大学）、筒井美樹（財）電力中央研究所）、鳥海重喜（中央大学）、生田目崇（専修大学）、西川武一郎（株）東芝）、根本俊男（文教大学）、牧本直樹（筑波大学）、宮代隆平（東京農工大学）

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成23年11月号 第56巻 第11号 通巻611号

代表者 敷土文夫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 松井知己

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円（本体924円） 年間予約購読料11,040円（税込）

●本誌への広告お申し込みは明報社（3546-1337）へ